

2021年7月4日(日)／説教者:神谷武宏

説教:「御言葉を行う人になりなさい」

聖書:ヤコブの手紙1:19~27

ヤコブ書は「御言葉を行う人になりなさい」と言う。「御言葉を聞くだけ」ではだめだと言う。きっと多くのクリスチャンは十分に「行う」ことは出来ていないと謙遜されるだろう。ただ、イエスの教えとして大事な御言葉は、申命記 6 章 5 節「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」である。それは礼拝を捧げることにつながる。私たちは礼拝を捧げているではないか。今はコロナ感染拡大が収まらない状況の中で集まるのが厳しい。何とかこの状況を乗り越えたあかつきには礼拝を共に喜び捧げて行こう。

また第二の戒めとしてレビ記 19 章 18 節「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」がある。この言葉は主が最も大事にしていると言っても過言ではない。この御言葉が顕著に表している箇所がルカ福音書の「善きサマリア人」の話になる。目の前に倒れ傷ついている人を見て見ぬふりする人と、自分にできることで精一杯助けた人がいた。何故、サマリア人は善き隣人に成り得たのか？その人は自分にできないことまでやってあげたのではない。目の前に困った人がいて、自分にできることを勇気をもって助けたのであった。この「隣人愛」は、私たちは既に持ち合わせているのではないか？完璧にとはいわないが、皆さんには既にその優しさ、「隣人愛」を持ち合わせていると思う。沖縄の言葉に「いちやりばちようでー(出会えば兄弟)」という言葉がある。沖縄には優しさがある。

私たちには既に主イエスが仰っている大事な御言葉に繋がるような信仰を持ち合わせている。これからもより良い信仰生活を一緒に送って行きたい。

もう一つ。このヤコブ書に対し、マルチン・ルターは「わらの書簡(値打のない書物)」と言った。それは「人は行いによって義とされる」ことを主張しているから。パウロはその逆で「人は信仰によって義とされる」と言い、ヤコブ書とパウロ書では対角にある。ただパウロの「人は信仰によって義とされる」とは、神と私との関係、神と人との関係のこと。神は人との関係の回復のために“神とは何か”を示された。人は神と共にあること、神と共に歩む存在である。人は何が出来る、何をしたらとって救いがあるのではなく、神があなたと共にあるため、共に歩むために神を信じる信仰を求めておられるのである。そこにパウロの「人は信仰によって義とされる(信仰義認)」と言うメッセージがある。

ヤコブ書は、ヤコブの手紙 1 章 27 節に「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし…」とあるように、私たちには、この世で信仰と同時に行動が求められている。主イエスが教えてくださった第一の戒め(礼拝)、また第二の戒め(隣人愛)の主の御言葉を行う者でありたい。(神谷)